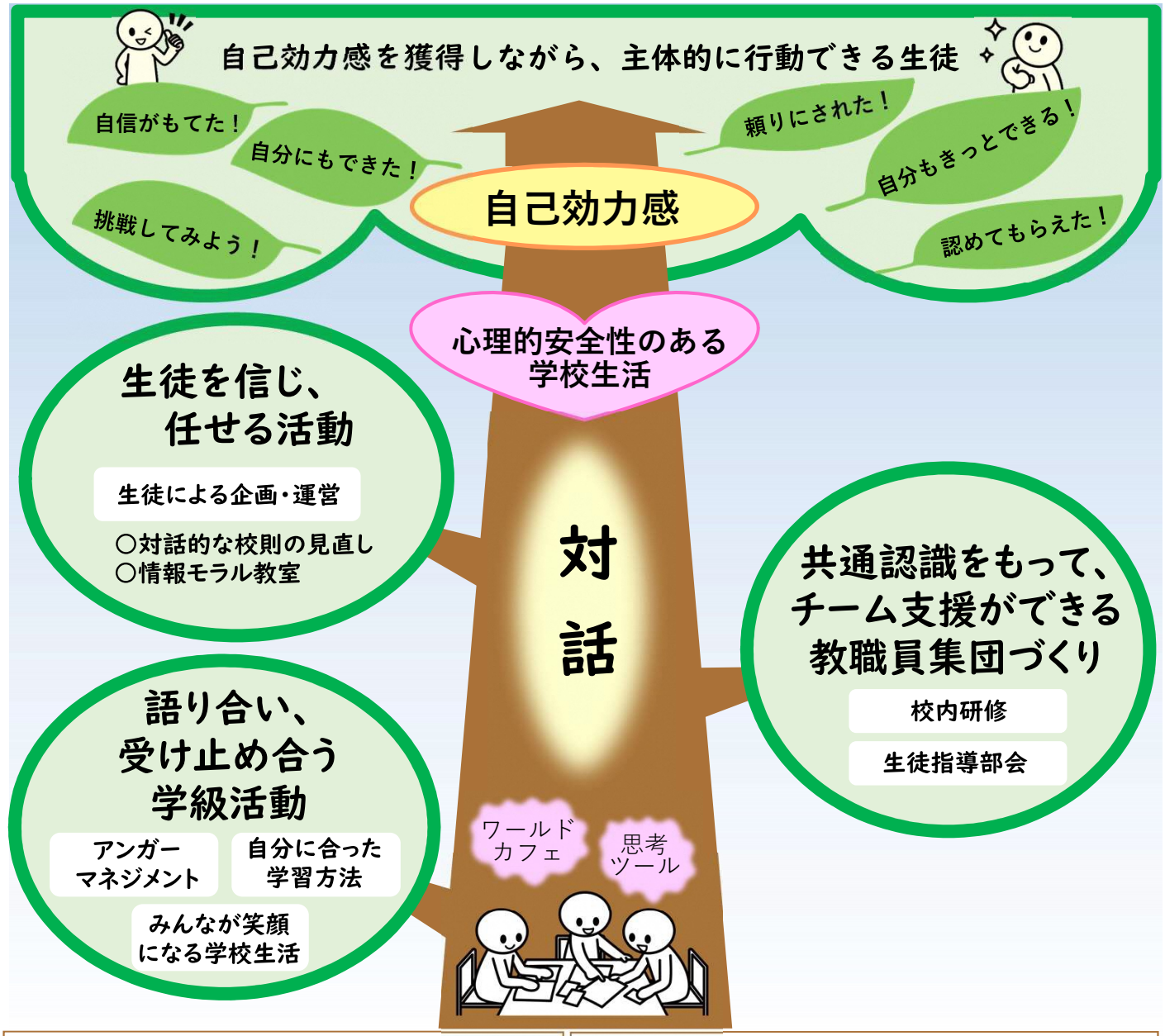
概要版【生徒指導】

生徒の自己効力感を高める生徒指導主事の取組

― 対話を軸とした発達支持的生徒指導の実践を通して ―

令和５年度　前橋特別研修研究員
前橋市立みずき中学校　小林　朱里

生徒指導主事として、対話を軸とした発達支持的生徒指導の実践を通して、
心理的安全性のある学校生活をつくり、生徒の自己効力感を高めることを目指します。



【生徒の実態】
- 自己肯定感、自己効力感が低い傾向がある。
- 自分の思いや考えを言葉で表現することが苦手である。
- 自己コントロールが苦手な生徒がいる。
- 自分で考えて主体的に行動する経験が少ない。

【教職員の課題】
- 多忙な日々の中で、教師間のコミュニケーションが減っている。
- 教職員同士の情報共有がうまくいかない場面がある。
- チームで効果的な支援がスムーズにできていない。

【これからの生徒指導に求められること】生徒指導提要（R4.12月）より
- 特定の生徒に焦点化した事後指導援助から、全校体制で取り組む生徒の成長・発達を支える生徒指導「発達支持的生徒指導」への転換
- 学習指導と生徒指導の一体化
- 「チーム学校」を実現した生徒指導体制の構築

語り合い、受け止め合う学級活動

内容	議題名 又は 題材名	ねらい	対話を活性化させるための手立て
(1)ウ	みんなが笑顔になる学校生活を目指して	集団生活の向上	ワールドカフェ
(2)ア	怒りの気持ちを上手に伝えよう	よりよい人間関係の形成	ピラミッドチャート
(3)ア	自分に合った学習方法を考えよう	主体的な学習態度の形成	Wチャート

クラスから学年に広がった学活！

新しい勉強方法を見つけ、同じ班の人に「頑張れ！」と言ってもらったのでやる気が出た。将来のために、今苦手なことも頑張ろうと思った。（生徒振り返りより）

怒ることは駄目と決めつけずに、相手の気持ちを考えて伝え方を工夫することで、よりよい人間関係につながっていくと感じた。（生徒振り返りより）

今度は教科ごとの学習のポイントが知りたいな

クラスを超えた交流行事があれば、友達を増やせるよね

体育館で実施した学年ワールドカフェ

学活から発展した学年行事！

生徒を信じ、任せる活動

対話的な校則の見直し

「校則見直しに関するガイドライン」作成
↓
全校生徒へアンケート調査を実施
↓
結果分析・生徒の思い、困り感を把握
↓
みずき中 ルールメイキング委員会
↓
生徒総会で提案・承認

全校生徒が生活しやすく、苦しさを感じない校則を実現するために！

生徒会主体

生徒総会で校則について提案

情報モラル教室

生徒会主体

全校生徒にアンケート調査を実施して、課題を洗い出した。問題提起をし、メディア宣言を提案した。

全校行事は生徒会が行うものと思っていたが、学級委員の自分にもできることがあると分かって自信がもてた。（3年学級委員振り返りより）

5教科マスター研究会

実行委員主体

生徒の質問に答える形で、各教科担当の先生から学習方法に関するアドバイスをもらった。

広がれ！つながれ！新しい輪

実行委員主体

今のクラスを解体し、新しい班を作り、レクを行う。レクの内容は実行委員が生徒の要望を募って決める。

初めての実行委員で不安だったけれど、会が終わった後、友達に褒めてもらえて挑戦してよかった！と感じた。（1年実行委員振り返りより）

共通認識をもって、チーム支援ができる教職員集団づくり

校内研修　ワールドカフェを取り入れて

【カフェテーマ】
今日が楽しい！明日も来たい！
と思う学校にするために

対話を通して出された意見

- 生徒が認められ、見守られていると感じられるように、声をかけたり、称賛の機会を多くしたりする。
- 生徒が失敗しても大丈夫と思えるような温かく寛容な学級づくりをする。
- 生徒がいつでも相談できるように、定期的な面談やアンケートを行う。
- 生徒が安心して過ごせるための工夫を学年間や学校全体で行えるようにする。

今回の校内研修は、楽しく盛り上がり、それでいて「生徒の心理的安全性」を考える中身の濃いものになった。（教職員アンケートより）

生徒指導部会

情報交換メインの部会から、協議メインの部会へ

校則の見直しについて

①4月の職員会議で提示した校則一覧で、指導していて違和感を感じるもの、人によって判断基準があいまいなもの、指導しにくさを感じるものについて、各学年から意見を吸い上げる。
②挙がったものについて、協議する。
③協議した内容を職員会議で提案。共通認識をもつ。
④「ルールメイキング委員会」において、生徒と協議する。

共通認識 → チーム支援へ

5月と12月に実施したQ-Uにおいて、「クラスの中で存在感があると思う」「自分の考えがクラスの考えになる」の項目は「全くそう思わない」が**0%**になった。

今まで間違えることが怖くて自分の意見を言わなかったけれど、学級活動や学年の行事でいろいろな友達の考えや価値観に触れ、間違えることは駄目なことではないと感じるようになった。

（非承認群から学級満足群に入った生徒Aの振り返り）

言葉で伝え認めることが必要なのだと思った。発達支持的生徒指導を全職員が全ての教育活動で実践できれば、生徒の自己効力感が上がると思う。

（教職員アンケートより）

成果と課題

○生徒がクラスの中で安心して自分を表現できる学級活動を行うとともに、生徒主体の活動を取り入れたことは、生徒の心理的安全性を高め、主体的な取組につながり、自己効力感を高めるための一助となった。また、教職員の間に心理的安全性をベースとした発達支持的生徒指導に対する共通認識が生まれた。

◇生徒指導主事として、校内研修部と連携し、生徒指導と学習指導の一体化を目指すとともに、教育相談部と連携し、生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援を目指す。生徒指導の年間指導計画を作成の上、生徒の心理的安全性を高める支援を組織的・計画的に進めながら、引き続き発達支持的生徒指導への意識を高め、実践を継続していく。